# 2019年度　カリキュラムマップ

H27年度入学以降　←→　H26年度入学以前

| | ディプロマポリシー | カリキュラムポリシー | 1年科目 | 2年科目 | 3年科目 | 4年科目 | 5年科目 | 6年科目 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. プロフェッショナリズム | ・薬剤師としての責務を自覚し、強い責任感と倫理観を持って、患者や地域住民に医療を提供できる。 | 薬剤師としての責務を認識し、倫理観を醸成するための授業科目（医療現場での体験実習を含む）を1年次から各学年で開講する。特に法規・規範を理解するための授業科目は2年次から開講する。授業で培った責務と倫理観をもって人間性豊かな医療を実践する態度を身につけるため、4年次後期から附属病院および薬局において参加・実践型の実務実習を行う。<br>知識に関する評価は筆記・口頭試験、態度を加えた評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。 | 薬学への招待 | 個人・集団・社会と健康 | 医薬品情報と患者情報 | 地域医療とプライマリーケア | 薬局実習 | 薬学研究 |
| | | | ヒューマンコミュニケーションA | 薬剤師と医薬品に係わる法規範Ⅰ | 社会保障制度と医療経済 | EBM演習 | 薬学研究 | 薬剤師の臨床判断 |
| | | | ヒューマンコミュニケーションB | コミュニケーション | 処方箋と調剤 | 基礎薬学演習（実務実習に備える） | インターンシップ | 学部連携地域医療実習 |
| | | | 地域医療入門 | 生と死 | 薬剤師と医薬品に係わる法規範2 | 薬と疾病チュートリアル３（がん疾患） | 実務実習に向けて（がん・感染症・臨床判断） | 学部連携病棟実習 |
| | | | アカデミックスキルズ | 診療の流れを知る 実習 | 薬剤師に求められる倫理観 | 薬学研究 入門 | 実務実習に向けて（症例演習） | |
| | | | チーム医療の基盤 | 在宅チーム医療と倫理 TBL Ⅱ | 薬剤師の使命 | 個別化医療 | 医薬品の副作用・有害作用 | |
| | | | 初年次体験実習 | | 薬と疾病ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ1(神経疾患) | 実務実習事前学習 | 病院実習1 | |
| | | | 健康と運動の科学 | | 薬と疾病ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ2(循環器疾患) | 学部連携チーム医療 PBL Ⅲ・在宅チーム医療と倫理 TBL Ⅲ | 病院実習2 | |
| | | | 人の行動と心理 | | 調剤・患者対応入門 実習 | 病院実習1 | 臨床心理学の活用 | |
| | | | | | 研究倫理と統計 演習 | | | |
| | | | | | 急性期医療と薬剤師 実習 | | | |
| | | | | | 学部連携チーム医療PBL Ⅱ・在宅ケア | | | |
| 2. コミュニケーション能力 | ・多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を築くことができる。<br>・患者や地域住民、医療関係者などとの間で、必要な情報の収集・提供を適切に行うことができる。 | 1年次は寮生活、初年次体験実習（在宅・福祉施設訪問等を含む）、学部連携科目などを通して多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を構築する。2年次からは、医療人として患者・家族、医療スタッフなどと適切に対応し、情報の収集・提供能力を修得するために、コミュニケーション演習、PBLチュートリアルなどの授業科目において参加型学修（模擬患者を対象としたロールプレイ実習を含む）を行う。4年次後期からは、附属病院の病棟や薬局・在宅で患者や家族との面談・指導および他学部学生、多職種との連携を実践する多様な実務実習を行う。<br>これらの評価は、レポート、ポートフォリオ、ルーブリック等を用い、成長過程も合わせて評価する。 | English for Healthcare Comunication | 薬学英語の基礎1 | 医薬品情報と患者情報 | EBM演習 | 実務実習に向けて（がん・感染症・臨床判断） | 薬学研究 |
| | | | Paragraph Writing | 薬学英語の基礎2 | 薬学英語1 | 薬と疾病チュートリアル３（がん疾患） | 海外における薬剤師の役割を知る | 薬剤師の臨床判断 |
| | | | Freshman English | コミュニケーション | 薬学英語2 | 薬学研究 入門 | 薬局実習 | 学部連携地域医療実習 |
| | | | 薬学英語入門 | 生と死 | 薬と疾病ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ1(神経疾患) | 実務実習事前学習 | 薬学研究 | 学部連携病棟実習 |
| | | | 薬学への招待 | 診療の流れを知る 実習 | 薬と疾病ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ2(循環器疾患) | 学部連携チーム医療 PBL Ⅲ・在宅チーム医療と倫理 TBL Ⅲ | アドバンスド薬学英語 | |
| | | | ヒューマンコミュニケーションA | 在宅チーム医療と倫理 TBL Ⅱ | 調剤・患者対応入門 実習 | 病院実習1 | キャリア教育 | |
| | | | ヒューマンコミュニケーションB | キャリアデザイン | 急性期医療と薬剤師 実習 | キャリア教育 | インターンシップ | |
| | | | 総合サイエンス臨床実習入門 | | 学部連携チーム医療PBL Ⅱ・在宅ケア | | 病院実習1 | |
| | | | 地域医療入門 | | | | 病院実習2 | |
| | | | アカデミックスキルズ | | | | 臨床心理学の活用 | |
| | | | チーム医療の基盤 | | | | | |
| | | | 健康と運動の科学 | | | | | |
| | | | 人の行動と心理 | | | | | |
| | | | 初年次体験実習 | | | | | |
| 3. 患者中心のチーム医療 | ・医療を共に担う多職種の職能を相互に理解・尊重し、患者に関わる情報を共有できる。<br>・多職種と連携・協力しながら薬剤師の専門性を発揮し、患者中心の医療を実践できる。 | 体系的な学部連携カリキュラムを全学年で構築する。1年次はチーム医療の基本を理解し、学生間の連携・協力の基盤を身に付けるために、寮生活のもと、多様な学部連携科目を開講する。2～4年次は、多職種間の相互理解と連携・協力をもとに、チーム医療を実施するシミュレーションとして、累進的に構成された学部連携PBLチュートリアルを各学年で開講する。4年次末～6年次には、患者中心のチーム医療を、医療現場で実践する能力を身に付けるため、附属病院・地域での実務実習・学部連携実習を行う。<br>チーム医療に求められる知識、技能、態度の評価はポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。 | 薬学への招待 | 薬剤師と医薬品に係わる法規範Ⅰ | 医薬品情報と患者情報 | 放射性医薬品の利用と管理 | 薬局実習 | 学部連携地域医療実習 |
| | | | ヒューマンコミュニケーションA | コミュニケーション | 社会保障制度と医療経済 | 地域医療とプライマリーケア | インターンシップ | 薬剤師の臨床判断 |
| | | | ヒューマンコミュニケーションB | 生と死 | 薬剤師と医薬品に係わる法規範2 | 薬と疾病チュートリアル３（がん疾患） | 実務実習に向けて（がん・感染症・臨床判断） | 学部連携病棟実習 |
| | | | 地域医療入門 | 診療の流れを知る 実習 | 薬と疾病ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ1(神経疾患) | 個別化医療 | 実務実習に向けて（症例演習） | |
| | | | アカデミックスキルズ | 在宅チーム医療と倫理 TBL Ⅱ | 薬と疾病ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ2(循環器疾患) | EBM演習 | 医薬品の副作用・有害作用 | |
| | | | チーム医療の基盤 | | 急性期医療と薬剤師 実習 | 基礎薬学演習（実務実習に備える） | 病院実習1 | |
| | | | 初年次体験実習 | | 学部連携チーム医療PBL Ⅱ・在宅ケア | 実務実習事前学習 | 病院実習2 | |
| | | | | | 調剤・患者対応入門 実習 | 学部連携チーム医療 PBL Ⅲ・在宅チーム医療と倫理 TBL Ⅲ | 臨床心理学の活用 | |
| | | | | | | 病院実習1 | | |
| 4. 専門的実践能力 | ４－１　医薬品の調製、管理、供給<br>・医薬品の多様な特性と法的規制を理解し、医薬品の調製、管理、供給を適切に実施できる。 | 医薬品の多様な特性を理解するために、1年次より薬学の基礎知識を学び、学年進行に応じて医療への応用が修得できるよう、体系的かつ段階的に講義・演習・実習を構築する。医薬品に関わる法規制を理解するための科目は2年次より、医療現場で医薬品の調製、管理、供給を適切に実践するために必要な知識、技能、態度を修得するための講義と実習は3年次より開講する。これらの授業で身につけた能力を薬学共用試験（CBT,OSCE）で評価したのち、4年次末から附属病院と薬局で実務実習を行う。<br>これらの評価には、筆記試験、口頭試験、レポート、ポートフォリオ、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。なお、知識レベルについては学年末の進級試験や卒業試験により総括的評価を行う。 | 漢方薬になる動物鉱物 | 化学平衡 | 医薬品の化学 | 漢方医学の実践 | 薬局実習 | 学部連携地域医療実習 |
| | | | 薬学への招待 | 官能基の化学 | 機器分析 | 薬となる化合物の構造と性質 | インターンシップ | 応用薬学演習 |
| | | | 生命活動を担う分子（細胞構成因子） | 薬の効き方 | 薬と疾病（呼吸器系疾患） | 輸液と栄養 | 病院実習1 | 薬剤師の臨床判断 |
| | | | 有機化合物の構造と性質 | 薬の作用と生体内運命 | 薬と疾病（循環器系疾患） | 薬と疾病(血液・皮膚・小児疾患) | 病院実習2 | |
| | | | 基礎サイエンス薬学部実習 | 生命活動を担う分子<br>(細胞の構造、機能と情報伝達) | 薬と疾病（代謝系・内分泌系疾患） | 個別化医療 | 応用薬学演習 | |
| | | | 生命活動を担う分子（生命の基本単位） | 物質の構造 | 薬と疾病(免疫・アレルギー疾患) | 放射性医薬品の利用と管理 | 実務実習に向けて（がん・感染症・臨床判断） | |
| | | | 物理の基礎 | 物質の状態と変化 | 処方箋と調剤 | 薬物送達システム | 実務実習に向けて（症例演習） | |
| | | | 熱力学・化学平衡概論 | 薬剤師と医薬品に係わる法規範Ⅰ | 製剤化と製剤試験法 | 基礎薬学演習（実務実習に備える） | 医薬品の副作用・有害作用 | |
| | | | 薬学の基礎としての数学 | 有機化合物の反応 | 製剤設計 | 実務実習事前学習 | | |
| | | | 化学の基礎 | 医薬品の検出と定量 | 製剤の性質 | 病院実習1 | | |
| | | | 人体の成り立ちと機能(総論) | 人体の成り立ちと機能<br>（神経・感覚器・皮膚・消化器・血液・呼吸器） | 生体分子の化学 | | | |
| | | | | 生体防御反応を担う組織、細胞、分子 | 生命活動を担う分子(ゲノム情報とバイオ医薬品) | | | |
| | | | | 生命活動を担う分子(DNAからタンパク質へ) | 薬剤師と医薬品に係わる法規範2 | | | |
| | | | | 生理から病態へ 演習 | 溶液の性質 | | | |
| | | | | 人体の成り立ちと機能 実習 | 臨床で用いる分析技術 | | | |
| | | | | 診療の流れを知る 実習 | 生体防御反応の応用と制御 | | | |
| | | | | 生命体の成り立ち 実習 | 急性期医療と薬剤師 実習 | | | |
| | | | | 物質の性質と分析 実習 | 調剤・患者対応入門 実習 | | | |
| | | | | 薬用植物の化学　実習 | | | | |
| | | | | 医薬品の化学 実習 | | | | |
| | ４－２　薬物治療の計画・実践・評価<br>・患者の病態とともに患者・家族の心理・社会的な背景を把握した上で、科学的な根拠と医薬品の特性に基づいて、安心・安全な薬物治療を実践できる。 | 薬物治療に必要な基本的知識を修得する科目は主として1～3年次に開講し、4～6年次には科学的な根拠に基づいた思考力や判断力、薬物治療の実践力を涵養するための授業科目を配置する。2年～4年次の「薬と疾病」、「PBLチュートリアル」では、医薬品の特性と科学的根拠に基づいた安心・安全な薬物治療を実践する能力の基盤を作る。4年次以降の実務実習（附属病院17週間、薬局11週間）では患者・家族の心理・社会的な背景を把握した上で薬物治療を実践するための学修を行い、5年次からのクリニカルクラークシップでは主体的に実践する。臨床における問題発見・解決能力を醸成するために、自己主導型学修をサポートし、省察と適切なフィードバックによって継続的な成長を促す。<br>これらの評価には、筆記試験、口頭試験、ポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。なお、知識レベルについては学年末の進級試験や卒業試験により総括的評価を行う。 | 生物統計 | 化学平衡 | 医薬品・化学物質の代謝反応 | 薬物送達システム | 薬局実習 | 学部連携地域医療実習 |
| | | | 薬学への招待 | 薬と疾病（悪性腫瘍） | 医薬品情報と患者情報 | 放射性医薬品の利用と管理 | インターンシップ | 応用薬学演習 |
| | | | 有機化合物の構造と性質 | 薬と疾病（感染症） | 医薬品の化学 | 薬と疾病(眼・耳鼻咽喉・骨関節疾患) | 病院実習1 | 薬剤師の臨床判断 |
| | | | 基礎サイエンス薬学部実習 | 薬の効き方 | 栄養と健康 | 漢方医学の実践 | 病院実習2 | 学部連携病棟実習 |
| | | | 生命活動を担う分子（生命の基本単位） | 薬の作用と生体内運命 | 薬と疾病（呼吸器系疾患） | 薬と疾病チュートリアル３（がん疾患） | 応用薬学演習 | |
| | | | 人体の成り立ちと機能 （神経・骨格・筋・消化器） | 薬の宝庫としての天然物 | 薬と疾病（循環器系疾患） | 薬毒物と中毒 | 実務実習に向けて（がん・感染症・臨床判断） | |
| | | | 物理の基礎 | 微生物と感染症 | 薬と疾病(消化器系疾患) | EBM演習 | 実務実習に向けて（症例演習） | |
| | | | 熱力学・化学平衡概論 | 物質の構造 | 薬と疾病(神経・精神系疾患) | 基礎薬学演習（実務実習に備える） | 医薬品の副作用・有害作用 | |
| | | | 薬学の基礎としての数学 | 物質の状態と変化 | 薬と疾病（代謝系・内分泌系疾患） | 薬と疾病(血液・皮膚・小児疾患) | | |
| | | | 化学の基礎 | 医薬品の検出と定量 | 薬と疾病(泌尿器系・生殖器系疾患) | 薬となる化合物の構造と性質 | | |
| | | | 人体の成り立ちと機能(総論) | 人体の成り立ちと機能<br>(循環器・泌尿生殖器・内分泌・遺伝) | 薬と疾病(免疫・アレルギー疾患) | 個別化医療 | | |
| | | | | 人体の成り立ちと機能<br>（神経・感覚器・皮膚・消化器・血液・呼吸器） | 処方箋と調剤 | 輸液と栄養 | | |
| | | | | 生体防御反応を担う組織、細胞、分子 | 製剤設計 | 分子・細胞から生理・病態へ | | |
| | | | | 生命活動を担う分子<br>(細胞の構造、機能と情報伝達) | 薬剤師と医薬品に係わる法規範2 | 学部連携チーム医療 PBL Ⅲ・在宅チーム医療と倫理 TBL Ⅲ | | |
| | | | | 生命活動を担う分子(代謝とエネルギー) | 薬物動態の解析 | 実務実習事前学習 | | |
| | | | | 生理から病態へ 演習 | 薬物の体内動態 | 病院実習1 | | |
| | | | | 人体の成り立ちと機能 実習 | 溶液の性質 | | | |
| | | | | 診療の流れを知る 実習 | 臨床で用いる分析技術 | | | |
| | | | | 生命体の成り立ち実習 | 生体分子の化学 | | | |
| | | | | 物質の性質と分析 実習 | 生体防御反応の応用と制御 | | | |
| | | | | 医薬品の化学 実習 | 薬と疾病ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ1(神経疾患) | | | |
| | | | | 薬用植物の化学　実習 | 薬と疾病ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ2(循環器疾患) | | | |
| | | | | | 急性期医療と薬剤師 実習 | | | |
| | | | | | 薬の効くプロセス 実習 | | | |
| 5.. 社会的貢献 | ・医療・福祉にかかわる社会的背景を把握し、プライマリケア、セルフメディケーション支援、在宅医療等を通じ、地域における人々の疾病予防、健康回復・維持・増進と地域の公衆衛生の向上に貢献する。 | プライマリケア、セルフメディケーション支援、在宅医療を実施する上での基本的な知識、技能、態度を修得するため、1年次より地域医療（在宅チーム医療教育を含む）、2年次から衛生薬学、「薬学と社会」に関する講義と実習を開講する。各学年で段階的な学修を継続した後、4年次末からの実務実習において地域での実践的学修を行う。<br>これらの評価には、筆記試験、口頭試験、ポートフォリオ、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。なお、知識レベルについては学年末の進級試験や卒業試験により総括的評価を行う。 | 漢方薬になる動物鉱物 | 個人・集団・社会と健康 | 栄養と健康 | 日常生活と健康 | 薬局実習 | 学部連携地域医療実習 |
| | | | 薬学への招待 | 生活環境と健康 | 社会保障制度と医療経済 | 地域医療とプライマリーケア | インターンシップ | 薬剤師の臨床判断 |
| | | | 地域医療入門 | 薬剤師と医薬品に係わる法規範Ⅰ | 薬剤師と医薬品に係わる法規範2 | 漢方医学の実践 | 病院実習2 | 学部連携病棟実習 |
| | | | チーム医療の基盤 | 在宅チーム医療と倫理 TBL Ⅱ | 製剤設計 | 基礎薬学演習（実務実習に備える） | 実務実習に向けて（がん・感染症・臨床判断） | |
| | | | 初年次体験実習 | 診療の流れを知る 実習 | 学部連携チーム医療PBL Ⅱ・在宅ケア | 個別化医療 | 実務実習に向けて（症例演習） | |
| | | | | 薬用植物の化学　実習 | 急性期医療と薬剤師 実習 | 学部連携チーム医療 PBL Ⅲ・在宅チーム医療と倫理 TBL Ⅲ | 医薬品の副作用・有害作用 | |
| | | | | | 健康と環境　実習 | | 臨床心理学の活用 | |
| 6. 薬学研究 と自己研鑽 | ・医療・薬学に関わる研究課題に取り組む科学的探求心を有する。<br>・論理的、批判的な視点から医療・薬学に関わる問題を発見し、解決するための方策を提示できる。<br>・最新の知識や技能、必要な情報を、国際的視野に立脚して生涯にわたって獲得する意欲と態度を有する。 | 基本的な研究手法を修得するために、2年次から各専門領域の実習を実施する。3年次において研究倫理ならびに統計的手法を学ぶ科目を開講する。さらに国際的な視野を持って高度な専門知識、研究手法、そして科学的根拠に基づいた問題発見・解決能力を身につけるため、4～6年次には薬学研究 を行う。4年次以降の薬学研究 、実務実習、演習は、自学自習を強く促し、省察と適切なフィードバックによって生涯にわたる自己研鑽の土台を作る。学会、学位論文発表会などに参加し、卒業後も研鑽を積んでいる薬剤師の活動を知る機会も設ける。<br>これらの評価には、筆記試験、口頭試験、実地試験、レポート、ルーブリック等を用い、成長の過程も合わせて評価する。なお、薬学研究 については研究成果の発表と論文により総括的評価を行う。 | 生物統計 | 個人・集団・社会と健康 | 医薬品の化学 | 薬学研究 入門 | アドバンスド薬学英語 | 薬学研究 |
| | | | 薬学への招待 | 生体防御反応を担う組織、細胞、分子 | 栄養と健康 | EBM演習 | 薬学研究 | 薬剤師の臨床判断 |
| | | | 総合サイエンス臨床実習入門 | 生命活動を担う分子<br>(細胞の構造、機能と情報伝達) | 薬と疾病（呼吸器系疾患） | 病院実習1 | 海外における薬剤師の役割を知る | |
| | | | 物理の基礎 | 生命活動を担う分子(代謝とエネルギー) | 薬と疾病(免疫・アレルギー疾患) | 薬となる化合物の構造と性質 | 薬局実習 | |
| | | | 熱力学・化学平衡概論 | 人体の成り立ちと機能<br>（神経・感覚器・皮膚・消化器・血液・呼吸器） | 生命活動を担う分子(ゲノム情報とバイオ医薬品) | キャリア教育 | 病院実習1 | |
| | | | 化学の基礎 | 人体の成り立ちと機能<br>（循環器・泌尿生殖器・内分泌・遺伝） | 薬学英語1 | 学部連携チーム医療 PBL Ⅲ・在宅チーム医療と倫理 TBL Ⅲ | 病院実習2 | |
| | | | フレッシュマンセミナー | 物質の状態と変化 | 薬学英語2 | | キャリア教育 | |
| | | | | 物質の構造 | 溶質の性質 | | 臨床心理学の活用 | |
| | | | | 薬の宝庫としての天然物 | 機器分析 | | | |
| | | | | キャリアデザイン | 生体分子の化学 | | | |
| | | | | 生理から病態へ 演習 | 生体防御反応の応用と制御 | | | |
| | | | | 生命体の成り立ち 実習 | 研究倫理と統計 演習 | | | |
| | | | | 物質の性質と分析 実習 | 健康と環境 実習 | | | |
| | | | | 医薬品の化学 実習 | 学部連携チーム医療PBL Ⅱ・在宅ケア | | | |
| | | | | 在宅チーム医療と倫理 TBL Ⅱ | 薬と疾病ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ1(神経疾患) | | | |
| | | | | 人体の成り立ちと機能 実習 | 薬と疾病ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ2(循環器疾患) | | | |
| 7. アイデンティティー | ・昭和大学の伝統を重んじ、その名誉を高めるために全力を尽くす。 | 全学年にわたって実施する4学部連携教育やアイデンティティー教育により、本学の伝統や特長を認識し、昭和大学卒業生としてのプライドを持って医療に貢献する薬剤師を養成する。<br>評価は口頭での確認やポートフォリオ等を用い、成長の過程も合わせて評価する。 | 地域医療入門 | 在宅チーム医療と倫理 TBL Ⅱ | 薬と疾病ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ1(神経疾患) | 薬と疾病チュートリアル３（がん疾患） | キャリア教育 | 学部連携地域医療実習 |
| | | | アカデミックスキルズ | キャリアデザイン | 薬と疾病ﾁｭｰﾄﾘｱﾙ2(循環器疾患) | 実務実習事前学習 | 臨床心理学の活用 | 学部連携病棟実習 |
| | | | チーム医療の基盤 | | 学部連携チーム医療PBL Ⅱ・在宅ケア | 学部連携チーム医療 PBL Ⅲ・在宅チーム医療と倫理 TBL Ⅲ | | |
| | | | 初年次体験実習 | | | キャリア教育 | | |
| | | | フレッシュマンセミナー | | | | | |
| | | | ・入学式<br>・各学期のオリエンテーション<br>・クラブ活動<br>・指導担任制度 | ・学祖祭（昭和大学学業成績優秀賞）<br>・各学期のオリエンテーション<br>・大学祭<br>・クラブ活動<br>・指導担任制度 | ・学祖祭（昭和大学学業成績優秀賞）<br>・各学期のオリエンテーション<br>・大学祭<br>・クラブ活動<br>・指導担任制度 | ・学祖祭（昭和大学学業成績優秀賞）<br>・各学期のオリエンテーション<br>・大学祭<br>・クラブ活動<br>・指導担任制度<br>・白衣授与式 | ・学祖祭（昭和大学学業成績優秀賞）<br>・各学期のオリエンテーション<br>・大学祭<br>・クラブ活動<br>・指導担任制度 | ・学祖祭（昭和大学学業成績優秀賞）<br>・各学期のオリエンテーション<br>・大学祭<br>・クラブ活動<br>・指導担任制度<br>・卒業式、上條賞授与 |